

令和元年

第1回 奥州市立水沢中学校改築
基本構想及び基本計画検討委員会
会議録

令和元年 12 月 12 日

奥州市教育委員会

○ 開会、閉会等に関する事項

開催日時 開会 令和元年 12 月 12 日（木）午後 6 時 30 分
閉会 //

開催場所 水沢中学校 会議室

○ 出席委員の氏名

佐藤孝守 委員長
千葉正文 副委員長
千葉和仁 委員
高橋豊和 委員
佐々木竜哉 委員
小澤進哉 委員
松田健一 委員
石川浩志 委員
三浦光章 委員
木村清且 委員

○ 説明のため出席した職員の職及び氏名

田面木茂樹教育長、千田良和教育部長、千田淳一教育総務課長

- ・ 事務職員出席者：佐藤茂利教育総務課長補佐、大沼慶太上席主任
- ・ 計画策定支援受託者 （株）綜企画設計仙台支店、秋保祥氏、佐藤卓也氏

○ 次第進行

（委嘱状交付）

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員自己紹介
- 4 事務局紹介
- 5 委員長及び副委員長の選出
- 6 議事

（1）報告

- ア 検討委員会の組織について
- イ 水沢中学校の現状、改築基本構想及び基本計画について

（2）協議

- ア 今後の検討の進め方について
- イ アンケート調査について

- 7 その他

○ 会議の概要

- ◎ 委嘱状を各委員へ交付（佐藤孝守委員、千葉正文委員、千葉和仁委員、高橋豊和委員、佐々木竜哉委員、小澤進哉委員、石川浩志委員、三浦光章委員、木村清且委員）

- ◎ 配布資料確認及び市民憲章唱和

- ◎ 定足数 5 名に対し、現時点で出席者数は 9 名、1 名は遅れるとのことであり、委員会は成立する旨宣言。

1 開会

2 教育長挨拶

おぼんでございます。雪がちらつく、大変忙しい中、委員会にお集まりいただきありがとうございます。

教育を取り巻く環境につきましては、御承知のとおり大変な状況がございますが、奥州市のみではなく、日本全体が人口減少の中、対策をどうするか、また新しく情報化社会への、教育としての様々な課題があり、これを解決していかなければならないという教育委員会としての責務があります。

当市では「学ぶことが奥州市の伝統であり 未来である」とする教育行政の基本理念のもと、奥州の子どもたちが、これからの時代をしっかりと生き抜いていく力を身に付けていくことができるよう、教育の発展に向けた取り組みを進めているところでございます。

新しい学習指導要領が、小学校では来年の 4 月から実施、次の年は中学校で実施予定となっています。そのキーポイントは、『自らの、主体的で深い学び』、私は子供達が自分で考え、自分で解決、そして主体的に対話していく、表現していく力を付けていくことが一番大事と考えており、それに対応した教育環境の整備を進めていかななくてはなりません。

小中学校が 36 校あり、老朽化が進行している学校も多く、人口減少に対応した統廃合も視野に入れていかなければならない課題も抱えております。

水沢中学校につきましては、建築より長期間を経過し、老朽化が著しく、現施設の改修では対応しきれない状況となっていることから、この度、改築事業を進めることとしたものです。

今年度は、本来もっと早い時期に委員会を開催したいところ、遅くなり申し訳ありませんが、基本構想及び基本計画内容の検討に着手することとし、検討委員会で皆様からのアイディア、御意見をいただきながら、改築に当たっての基本構想及び計画内容について御検討いただき、計画等を策定してまいりたいと存じますのでよろしくお願いいたします。

- ◎ 委嘱状を委員へ交付

3 委員自己紹介

4 事務局自己紹介

5 委員長及び副委員長選出

委員長に佐藤孝守委員及び副委員長に千葉正文委員を選出

6 議事

(1) 報告

ア 検討委員会の組織について

事務局より資料に基づき説明し、質疑なく、内容について了承された。

イ 水沢中学校の現状、改築基本構想及び基本計画について

事務局より資料に基づき説明し、質疑なく、内容について了承された。

(2) 協議

ア 今後の検討の進め方について

事務局より資料に基づき説明し、委員より次のとおり質疑があり、原案のとおり了承された。

● 委員 『小中連携等』の『等』とは何を指しているのか。

→ 事務局 文部科学省の示す連携については、建物自体が一つの建物として繋がっているとか、取組みとして連携できる機能を持つとか、連携の様々なパターンを提示されているところである。この記述がふさわしいかどうかということはあるが、検討いただきたい内容としては、中学校の改築ではあるが、小学校との連携の在り方についても、ハード面、ソフト面の観点から検討いただきたいという意味合いである。

● 委員 委員会の開催程度は5回程度とのことだが、年度内で方向性を見出されたいのか、年度を越えてでもやっていきたいのか、当然大事な内容であり、締め切りに合わせて急いでやるものではないと私も認識しているが、自分も含め今年度で任期が切れ、新しい委員に替わると、また一からとなることも考えられ、良い悪いは別として、概ねいつまでにこの検討を終えたいのか。

→ 事務局 まず、第1回目がこの時期となったことについてお詫び申し上げる。進めるに当たっての準備や体制整備に時間を要したことが理由としてあげられる。

全体の計画の中で言えば、校舎の改築工事については計画通り進めるべきと考えている。そこから逆算すると、その前に設計期間が必要となるとところだが、委員会が12月からスタートということであることから、検討を年度内完了というように拙速に進めるべきではなく年度を跨がらざるを得ないと捉えている。

→ 事務局 スケジュールの見直しにより、年度を越えることから、委員が変わることは想定されるが、新しい委員には、それまでの経過や議論の内容、検討のポイントについて、こちらからきちんと御説明し、それを踏まえたうえで検討を続けていく形で進めてまいりたい。

- 委員 市の当局にも人事異動がある、引継ぎが十分になされなかった事例もあることから、よろしくお願いしたい。

- 委員 公共建築物は、その街の文化、産業に影響を与える。例えば一関市の例では、花泉の図書館を建築するときには、（木材供給と建設工事を分離し、地元の森林組合の協力により）地元産材で集積材を作り、現物支給する形で建築した。大迫中学校の例では、学校林を持っていて、それを使った例もある。こうしたことは、あらかじめ計画しておかないと、途中からポンとやれるものではない。縦割り行政ではなく横の関連も考慮し総合的な事業として計画されたらよろしいかと思う。

→ 事務局 奥州市では、木材利用に関して、そこまでの深い思い入れなく施設整備を進めてきたが、地域や産業との関連について、実際に取り入れられるかわからないが、まさにそうしたことも含めて検討をお願いしたい。

- 委員 文化のバトンタッチという観点で、奥州市にある歴史的な建造物のデザインを取り入れたり、木造を採用してはどうか。木造の優れた点も様々ある。

- 委員 もう教育委員会である程度基本構想はできていて、そこに意見を述べる形式で進めるものと思っていた。ゼロベースからでは限られた時間の中でまとめられず、委員が変わってまたやり直しとなりかねない。

木造は市の既存の例ではメンテがされず傷んでしまっている状況。一方、鉄筋コンクリート造のメンテナンス性は高いと考えている。

→ 事務局 現地での単独改築ということは決まっている。それを踏まえてこれからの水沢中学校の在り方、重点を様々な角度から意見をいただき、検討いただいて計画に落とし込んでいくよう考えている。

イ アンケート調査について

事務局より資料に基づき説明し、委員より次のとおり質疑があった。

- 委員 小学校教員を対象としてほしい。

回収については、FAX回収を取り入れてはいかがか。

→ 事務局 小中教員共に意見いただけたらと思う。FAX回収は検討したい。

- 委員 小学校については校長が委員として発言できるので小学校教員へのアンケートはいらないと思う。中学校の先生の意見を尊重すべきと考える。

- 委員 アンケート配布・回収については地区センターを活用してほしい。

- 委員 アンケート対象は、中学校生徒はクラス抽出ではなく全員にお願いしたい。アンケートは施設を全体及びパーツ毎（校舎、体育館など）に分けた内容か。

→ 事務局 全員にお願いしてよろしければそのようにさせていただきた

い。小学校についても5～6学年全員とさせていただくか。

- 委員 5～6年生は新校舎に入れない。4年生まで入れるか迷うところである。

→ 事務局 内容についてはまず校舎、という部分的でなく全体的にお伺いする。

- 教育長 今回のアンケートは大きな枠組みについての調査内容としたい。

→ 次のとおり了承された。

アンケート文案については、事務局に一任すること。

調査対象は中学校生徒及び保護者並びに教職員は全員、小学校は5～6年生の全児童の考えを調査すること。

地区住民に対するアンケートについては、地区センターを活用して配布・回収すること。

なお、委員より、委員会が年度を跨ぐことを念頭に、なるべくスケジュールを短縮いただきたい旨発言があった。また、委員より保護者の手元に届くよう配布の仕方を工夫されたい旨発言があった。

7 その他

- 委員 去年、体育館の照明が落下したこともあり、改築されるまでの移行期間に係る現施設のメンテナンスについて遺漏ないよう対応されたい。

この委員会が、地域や関係者の意見を聞きましたという体裁づくりのためのものにしてほしくない。想定より2箇月遅れというのは相当なことだと思う。とはいえ、焦ることなく進められたい。

→ 次回開催日については、改めて事務局より照会・調整させていただきたいこと、冬季であり、検討内容のヴォリュームも出てくることから、開始を午後6時からとしたいこととし、了承された。